

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	4 教育研究組織（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況	
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	
要素		

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 定員充足率を改善する	→定員充足率	C
2. 課程博士取得率を改善する	→課程博士取得率	B
3. 学位取得に要する平均年数を短縮する	→学位取得平均年数	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 各研究科は多くの制約のもとで努力を続けている結果、定員充足率の低下傾向に歯止めがかかりつつある。具体的には06年90%, 07年80%, 08年78%, 09年75%, 10年74%
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 定員充足率、課程博士取得率については定期的に情報を集約し、検証を行っている。
☆ その他	

### ◎効果が上がっている事項

#### 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	定員充足率については上記のように低下傾向に歯止めがかかりつつある。また学位取得率については近年多少の凸凹はあれど上昇傾向にある。
☆ 小項目4.0.2	検証によって大学院を改善する意識が全学的に喚起されており、パフォーマンスの改善が期待できる。
その他	

#### 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目4.0.1	学位取得にかかる平均年数についての情報収集.
★小項目4.0.2	数値目標設定の可能性について検討すべき.
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○「教育研究組織」に関する目標等を、記入してください。

## 【学内委員】

○大学として全体的な傾向を分析することは重要です。また、個々の研究科独自の課題に関しても指針を持つ必要があると思われる。特に専門職大学院の在り方（教職大学院問題も含む）についての指針が必要ではと思われる。

○定員充足率はこの評価項目での課題でしょうか。次の「学生受け入れ」の課題ではないでしょうか。課程博士取得率についてはどうでしょうか。

○最も基本となる定員充足率については、数値の把握にとどまっています。評価項目の要素にある「理念・目的との適合性」「学術の進展や社会の養成との適合性」「研究活動の状況」などを視野に入れた原因の把握と改善の方策の検討が期待されます。

○本評価項目は、研究科だけではなく、附置研究所・センター等の組織について適切かどうかという問いかけです。したがって、大学院の充足率や課程博士の取得率などを記述する箇所ではありません。これらは、「5. 学生の受け入れ」「6. 教育内容・方法・成果」などでの記述となります。

○学科や課程などの変更の動きについて説明を望みます。

○「目標」にあげた3点を、研究教育組織の適切さを示すものとして重視していることを、小項目ごとの現状説明のところで述べておいてはどうでしょうか。

○目標の設定についても再考してください。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>


<個別的な指標>
